

2024年2月期(2023年度)上半期

決算説明会



イオン九州株式会社

(証券コード 2653)

2023年10月11日(水)

1. 2023年度上半期決算概要
2. 2023年度における主な取り組みの進捗状況
3. 2023年度通期の業績見通し

営業収益、各段階利益ともに単体業績として過去最高を更新

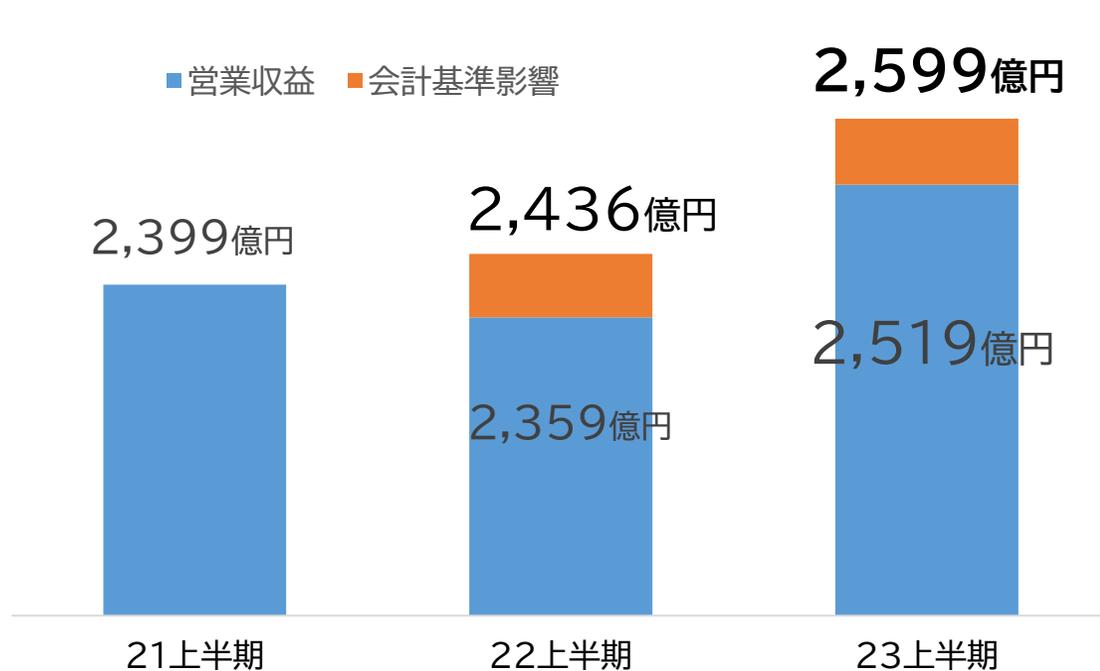
- 行動制限の緩和による外出・旅行などの需要拡大への対応
- 様々な商品の値上げが相次ぐ中で、生活応援施策を継続、期間を通じて売上高が好調に推移

(単位:百万円)	2023年度 上半期		2022年度 上半期	(単体) 前年同期比
	(連結)	(単体)		
営業収益	252,278	251,974	235,991	106.8%
営業利益	5,445	5,695	3,122	182.4%
経常利益	5,659	5,910	3,516	168.1%
四半期純利益	3,869	3,997	2,477	161.3%
総資産	168,909	168,504	160,649	104.9%
純資産	47,207	47,275	43,890	107.7%
1株当たり四半期純利益	112.00	115.71	71.48円	
自己資本比率	27.8%	28.0	27.3%	

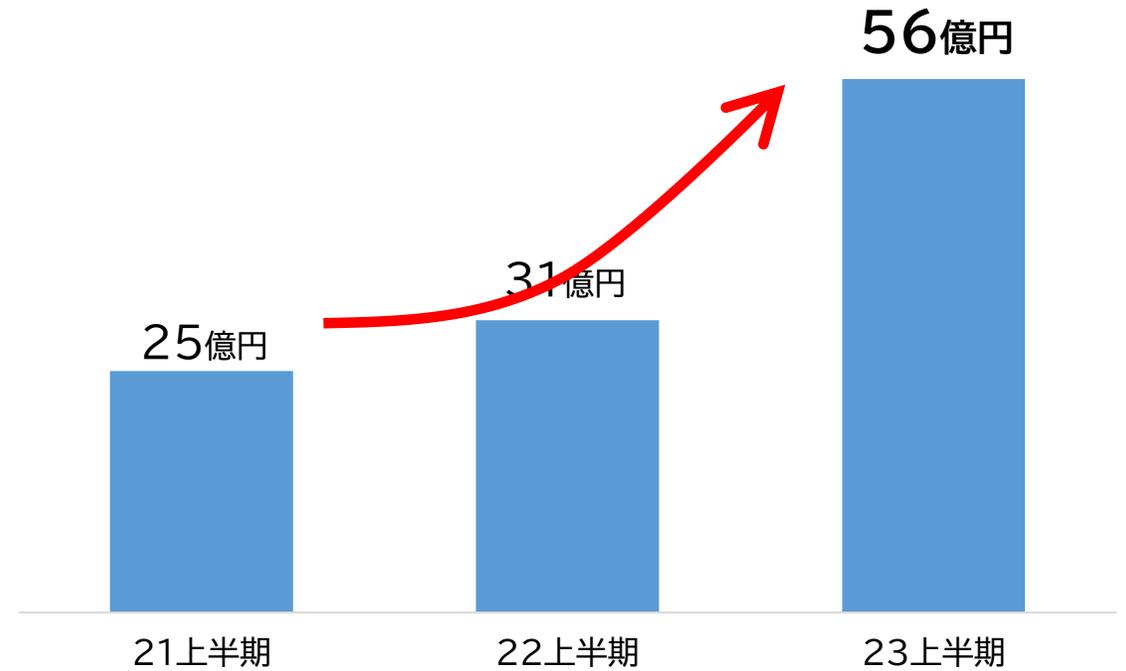
経営統合(2020年9月)後の業績は順調に推移

- 取り巻く環境が大きく変化する中で、マルチフォーマットをもつ強みを発揮
- グループのスケールメリットを享受しつつ、新たな成長へ向け当社独自施策を積極的に推進

営業収益



営業利益



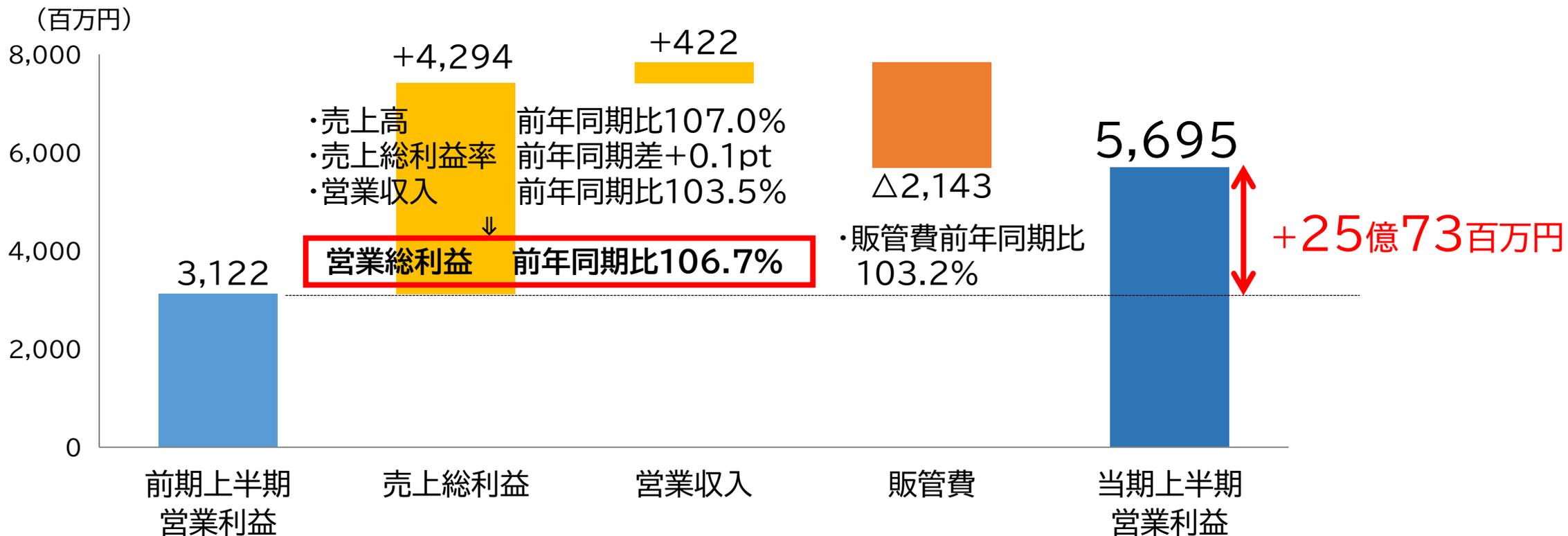
大幅増益の主な要因はトップライン拡大によるもの

- 売上高・売上総利益・営業収入ともに前期を上回り増収確保
- 「iAEON」への移行に伴うコスト増等はあったものの、生産性向上の取り組みが奏功し増益

(単位:百万円)	2023年度 上半期			2022年度 上半期	
	実績	売上比	前年同期比	実績	売上比
営業収益	251,974	—	106.8%	235,991	—
売上高	239,319	100.0%	107.0%	223,740	100.0%
売上総利益	62,299	26.0%	107.4%	57,986	25.9%
営業収入	12,654	5.3%	103.3%	12,251	5.5%
販管費計	69,258	28.9%	103.2%	67,115	30.0%
営業利益	5,695	2.4%	181.4%	3,122	1.4%

増益要因はトップラインの増加によるもの

- 売上高 主力部門の食品が好調、衣料品・住居余暇商品の売上回復により前年同期比107.0%
- 売上総利益率 前年同期差+0.1pt、売上総利益は前年同期比107.4%
- 営業収入 アパレル・飲食専門店テナントへの集客回復、物販催事の展開で前年同期比103.5%
- 販管費では、効率改善・生産性向上の取組み等によりコスト上昇影響を抑え、前年同期比103.2%



SM・DS業態及びGMS食品の売上が好調に推移

- 新店(前期及び当期合わせて9店舗)効果及び改装店舗含め既存店売上伸長
- 外出や社会歳時関連の需要の高まりに対応するべく、トラベル関連商品や化粧品、ウェルネスフーズ、総菜や冷凍食品などの品揃えを拡充

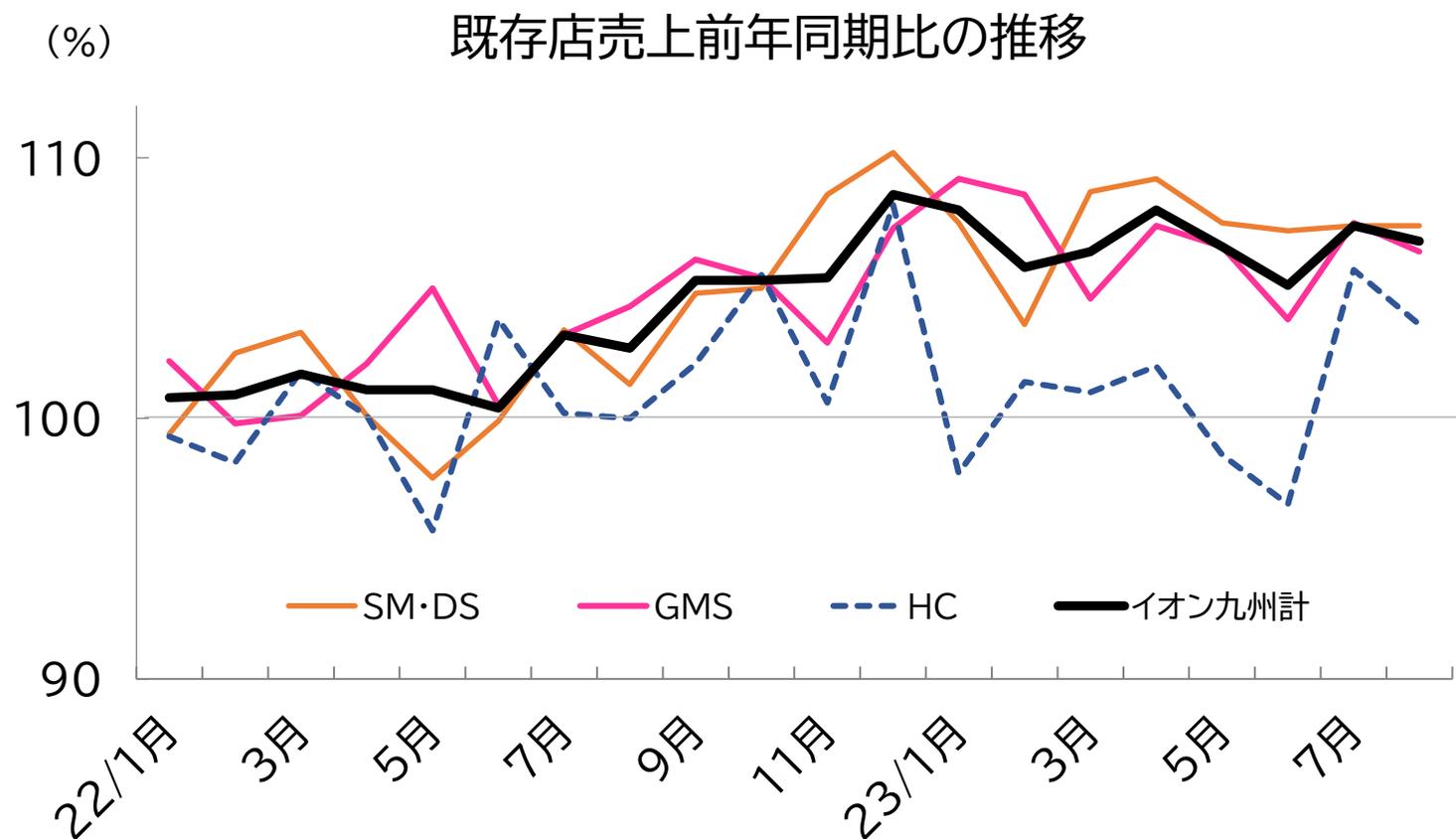
◆主な業態の売上動向

(単位:百万円)	2023年度 上半期			2022年度 上半期	
	売上高	構成比(※)	前年同期比	売上高	構成比(※)
SM・DS	116,131	48.5%	107.6%	107,885	48.2%
GMS	112,362	47.0%	106.9%	105,114	47.0%
衣料品	20,568	8.6%	106.4%	19,338	8.6%
食品	74,000	30.9%	108.1%	68,478	30.6%
住居余暇商品	17,779	7.4%	102.9%	17,281	7.7%
SM・DS、GMS計	228,493	95.5%	107.3%	212,999	95.2%

※構成比は、会社計売上高に対する割合を表しています。

既存店の売上は2022年1月以降、20か月連続で前年同月を上回る

- 行動制限の緩和等によりGMS伸長
- お客様のニーズが大きく変化する中でマルチフォーマットの強みを活かす

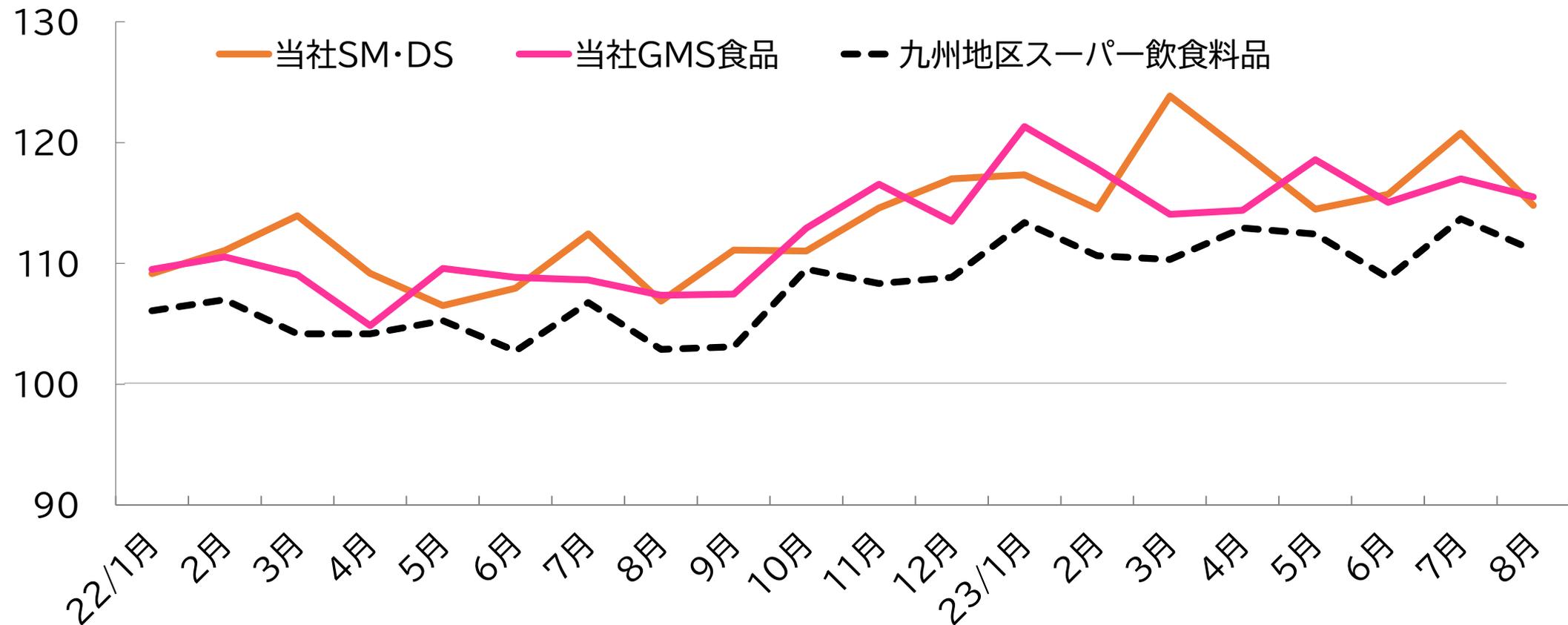


	2023年度 上半期
	既存店売上 前年同期比
SM・DS	107.9%
GMS	106.1%
衣料品	105.6%
食品	107.1%
住居余暇商品	102.6%
HC	101.2%
その他	104.7%
合計	106.7%

当社売上は市場(九州地区スーパー)を上回る伸長率で推移

➤ お客様のニーズが大きく変化する中でマルチフォーマットの強みを活かす

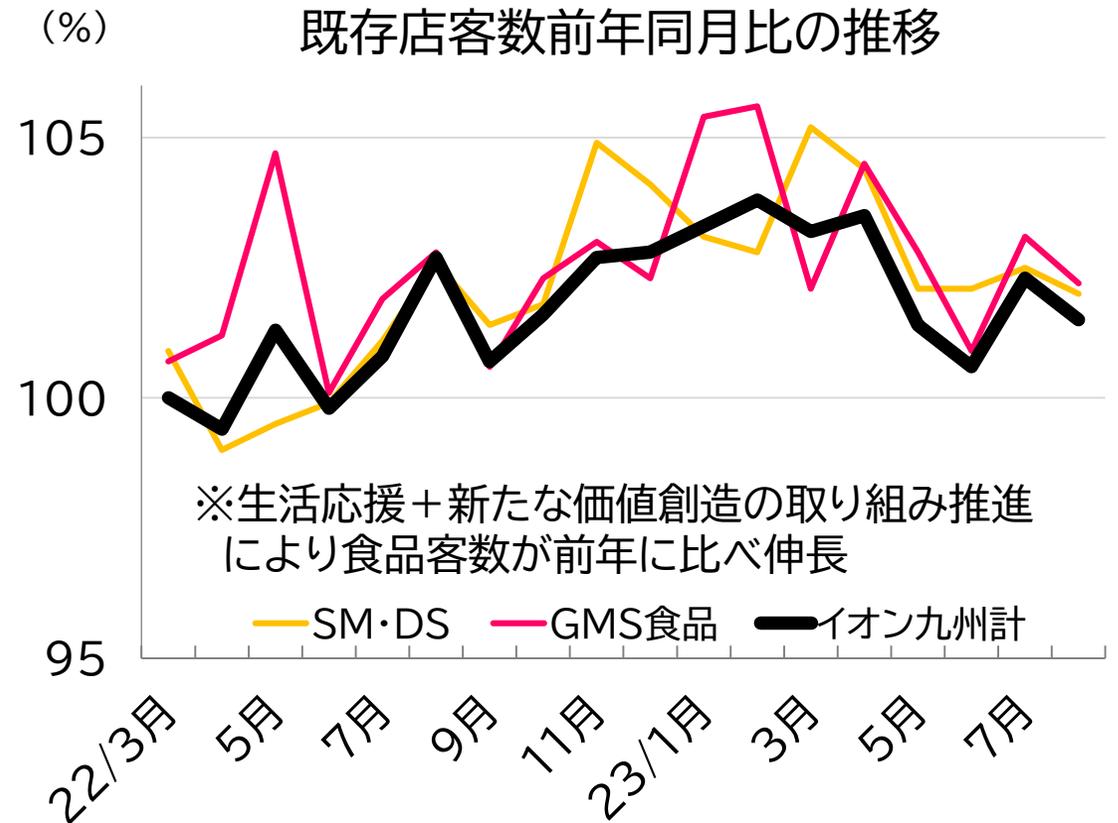
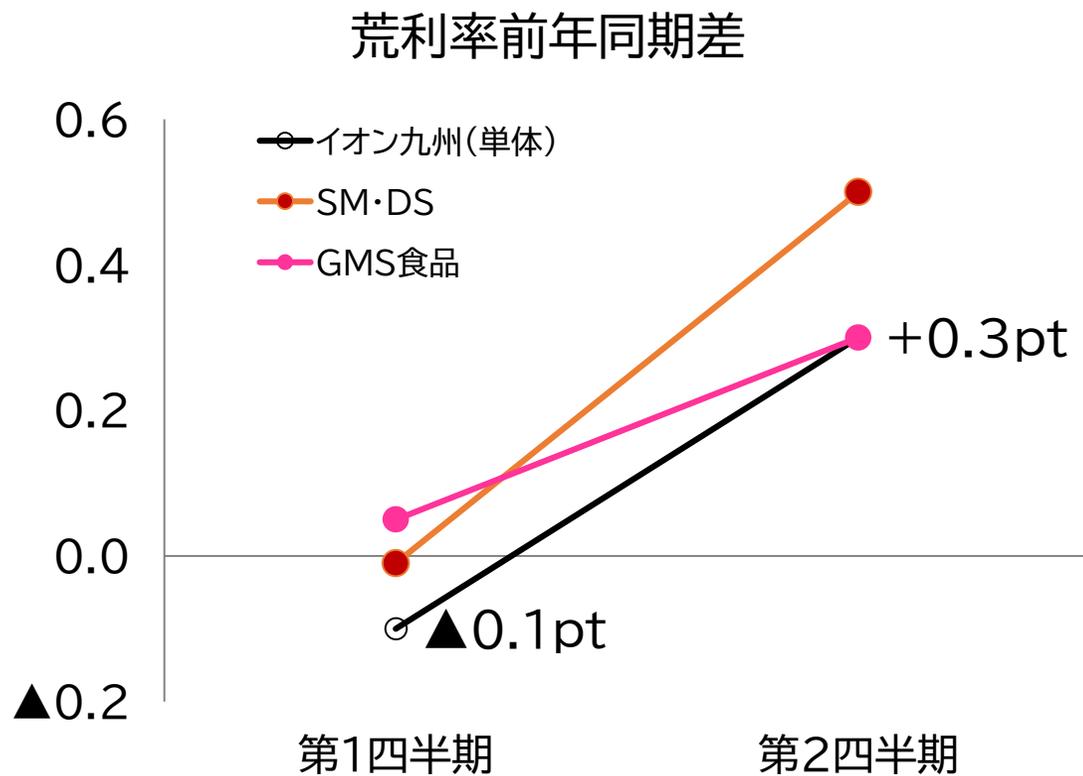
既存店売上指数(2019年売上=100)



※九州地区スーパー飲食料品:(経済産業省 九州経済産業局)九州百貨店・スーパー販売動向より

食品構成が高まる中で荒利率+0.1pt改善、荒利益高前期比107.4%

- 食品 値上げが相次ぐ中、生活応援施策を強化しつつ、新たな価値を創造する商品・売場を導入
お客さまのニーズが高く比較的利益率が高いデリカ・フローズン部門の販売を強化
- 衣料品・住居余暇商品 大きく変化したお客さまニーズへの対応(トラベル・服飾雑貨・ビューティ等)



今後の成長に向けた投資を実行、生産性向上で販管費率は0.9pt改善

- 人件費 セルフレジ、レジゴー導入によるレジのスマート化及び電子棚札導入等による生産性向上
- 販促費 イオン九州アプリからiAEONへの移行を推進するため販促施策を強化
- 設備費 電気使用量削減取り組み等により水道光熱費前年同期比100.2%
- 一般費 DX推進等によるシステム関連経費の増加(前年同期比129.6%)

(単位:百万円)	2023年度 上半期			2022年度 上半期	
	実績	営収比	前年同期比	実績	営収比
販管費合計	69,258	27.5%	103.2%	67,115	28.4%
人件費	33,059	13.1%	103.3%	31,996	13.6%
販促費	6,729	2.7%	105.2%	6,395	2.7%
設備費	24,567	9.8%	101.5%	24,208	10.3%
一般費	4,901	1.9%	108.6%	4,514	1.9%

新規出店、既存店活性化等設備投資の実施額106億17百万円

- 総資産 新規出店及び既存店活性化、DX投資を計画的に推進し、固定資産が増加
- 負債 新規出店に伴う仕入増により買掛金が増加

(単位:百万円)	2023/8期末			2023/2期末	
		構成比	増減額	実績	構成比
総資産	168,504	100.0%	10,315	158,189	100.0%
流動資産	52,697	31.3%	4,891	47,806	30.2%
固定資産	115,807	68.7%	5,424	110,383	69.8%
負債	121,228	71.9%	9,331	111,897	70.7%
流動負債	85,296	50.6%	6,910	78,385	49.6%
固定負債	35,932	21.3%	2,420	33,511	21.2%
純資産	47,275	28.1%	983	46,291	29.3%
利益剰余金	33,470	19.8%	3,024	30,446	19.2%
その他	13,805	8.2%	△2,040	15,845	10.0%
有利子負債	31,599	18.8%	1,374	30,225	19.1%

成長投資を実行しつつ、フリーキャッシュフローは+42億10百万円

- 営業CF 好調な業績を背景に+102億29百万円
- 投資CF 新規出店及び既存店活性化、DX投資等で△60億18百万円
- 財務CF 借入金の返済及び配当金の支払いで△16億69百万円

(単位:百万円)	2023年度上半期	2022年度上半期
営業活動によるCF	10,229	8,378
税引前四半期純利益	5,122	3,500
減価償却費	3,169	3,419
その他	1,937	1,458
投資活動によるCF	△6,018	△2,679
有形固定資産の取得	△7,494	△2,804
その他	1,475	125
財務活動によるCF	△1,669	△6,125
有利子負債	1,374	△5,432
その他	△3,043	△693

1. 2023年度上半期決算概要

2. 2023年度における主な取り組みの進捗状況

3. 2023年度通期の業績見通し

九州は一つの宝島です
うつくしい自然、おいしい食材
独自の食文化や伝統文化など
数えきれないほどの
たくさんの宝物があります

そこで働く人、そこに住む人、
そこを訪れる人
私たちはたくさんの「人」と、
恵まれた環境の中で
「つながり」という宝物を手に入れ、
成長してきました

お客さまからの「ありがとう」
仲間同士の「ありがとう」
そのつながりとそこから生まれる笑顔が
私たちの原動力です

これからもすべての「つながり」を大切に
豊かな暮らしと明るく元気なあしたのために
私たちは「変革と挑戦」を続けます

AEON
イオン九州株式会社

私たちの「たからもの」
九州をもっと——。

2025年に向けた取り組み

九州の「もっと」を創造し、
九州の発展と暮らしの豊かさ、
そして、持続可能な社会づくりに
貢献できる企業であり続けるため、
5つの取り組みを進めてまいります。

イオン
生活圏
創造

九州
ブランド
発信

多様な人財が
活躍する企業

CXとEXを
ともに満たす
DX実現

九州でNo.1の
信頼される
企業

・SM(食品)改革

地域商品開発、都市型小型店、PC機能拡充

・GMS(衣料、住居余暇商品)改革

専門店化推進、SNS活用、Eコマース強化

・HC再成長

ディスティネーション構築、ワイド便推進

・DX(デジタルトランスフォーメーション)推進

CXとEXをともに満たすDX推進

・新業態、新事業開発

・人財育成、組織改革

・サステナブル、環境保全・社会貢献

持続可能な社会の実現に向け、取り組み継続

福岡県内へのGMS・SM業態出店によるマーケットシェア拡大

- GMS (上半期)イオンなかま店
- SM (上半期)MV城野駅前店、MVEX室見店、MVEX白金店 (下半期)3店舗計画



イオンなかま店(福岡県中間市、3月)



マックスバリュエクスプレス室見店(福岡市早良区、3月)



マックスバリュ城野駅前店(北九州市小倉南区、5月)



マックスバリュエクスプレス白金店(福岡市中央区、8月)

(イオンウエルシア九州)地域のWell-being実現へ新フォーマット展開

- 調剤併設型ドラッグストアと生鮮食品・弁当・総菜を揃えたスーパーマーケットを融合



ウエルシアプラス大野城若草店(福岡県大野城市、4月)



ウエルシアプラス熊本島町店(熊本市南区、8月)



調剤薬局を併設

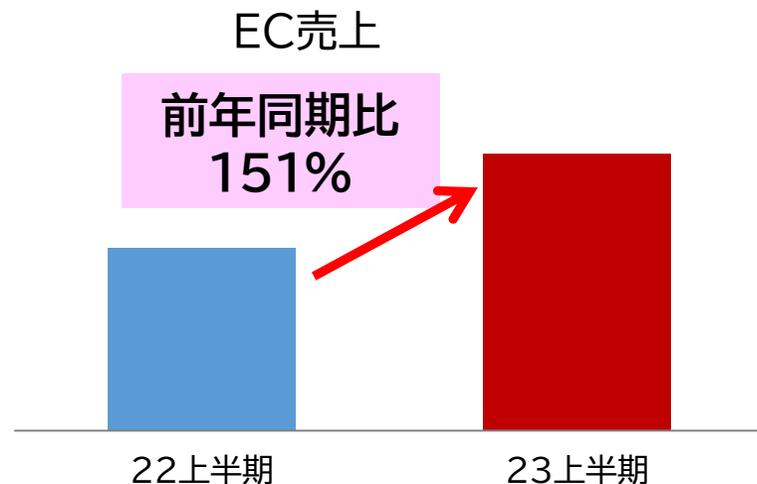


生鮮食品、総菜の品揃え

- 2023年度出店状況
(上半期)2店舗 (下半期)3店舗計画
- 1号店売上状況
食品が好調、当初計画を上回り順調に推移

OMOの実現に向けたサービス拡充と、セールによる認知度向上

- 物流における2024年問題を視野に、リアル店舗をもつ強みを活かしたECの形を構築



【イオン九州オンライン+e予約】売上昨対139%

- 7月より「暮らしの品」「ベビー用品」を福岡県内のSM(マックスバリュ)店舗で受取開始
- ECセール「ビッグバザール」初開催
- 上半期における新たな地域発掘商品401SKU

【外部EC】売上昨対225%

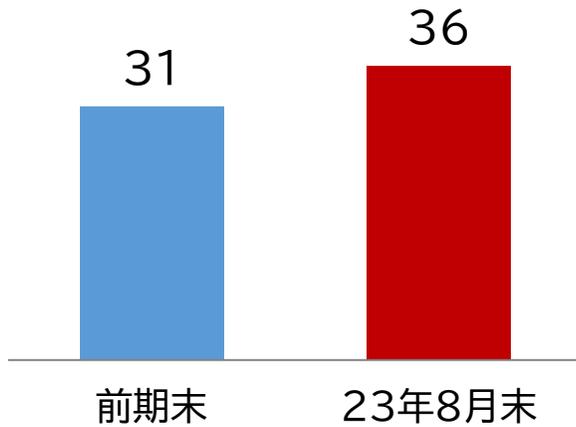
- 掲載商品拡大、掲載内容の改善でレビュー増

【リアル⇔EC 双方向での集客】
店舗で利用できるクーポン企画等、店舗受取を推進



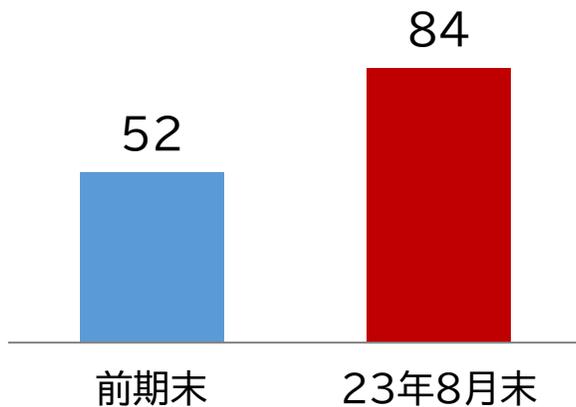
ネットスーパー拠点・受取ロッカー拡大 及び 移動販売サービス開始

ネットスーパー導入店舗数



- 【ネットスーパー利便性向上】
- 従来のGMS店舗「おうちでイオン」に加えてSM店舗を中心にイオン九州版ネットスーパーを導入
 - 店舗だけでなく駅構内への受取ロッカー設置
 - 下半期はカーブサイドピックアップサービスを導入予定

フードデリバリー導入店舗数



【フードデリバリーサービス】
導入店舗拡大



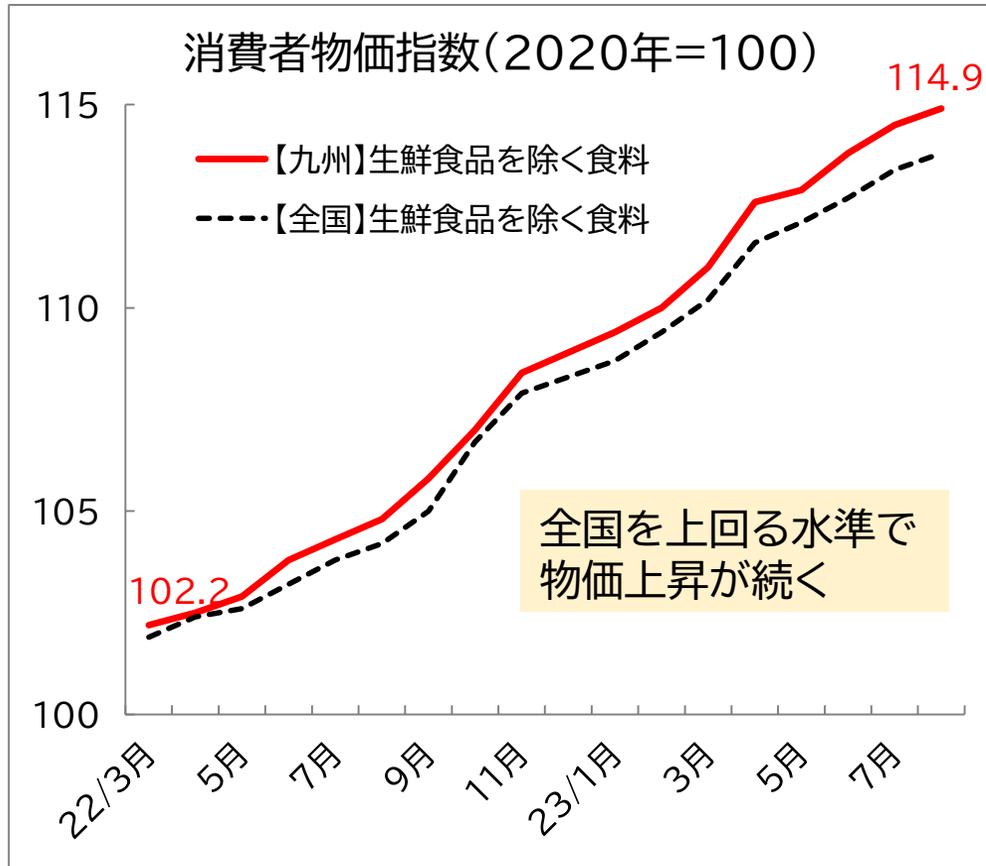
【移動販売】上期2店舗・下期1店舗



ネットスーパーと連携した
利便性の高いサービス

生活応援施策の継続・進化によるトップライン確保

- 原材料価格及びエネルギー価格高騰等により食料品を中心に物価上昇は今後も続く見通し
- 「しあわせプラス」(第1回)最大約1,500品目⇒(第2回)衣料・住居余暇を含む最大約4,000品目
- 「トップバリュ ベストプライス」の売場訴求を強化、9月から「厳選31品目」を値下げ

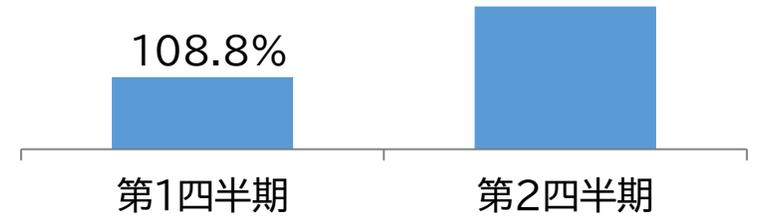


※(総務省統計局)消費者物価指数(2020年基準)より経営企画部にて作成



前年「本気の価格」売上比較

※食品のみ



【ベストプライス】
上半期売上
前年同期比
138.7%

AEON NEWS RELEASE 木を植えています



2023年9月25日
イオン株式会社
イオントップバリュ株式会社
イオン九州株式会社

トップバリュ「厳選31品目」を値下げ

9月25日から、全国約10,000店舗で実施

イオンは9月25日(月)から、「イオン」「イオンスタイル」「マックスバリュ」など、全国約10,000店舗にて、イオンのプライベートブランド「トップバリュ」31品目を値下げします。



新たな価値創造に向けた専門化、オリジナル商品の開発

- 「こだわりの逸品」「デリ・スイーツ」「冷凍スイーツ・ベーカリー」「ワントレー商品」等の品揃え拡充
- 輸入食品、オーガニック、純国産無添加商品など高付加価値商品の新規導入



【Picard(ピカール)】
イオンマリナタウン店に九州初導入 (7月)



【biolala(ビオララ)】
イオンスタイル笹丘にて展開 (10月)



【カフェランテショップ】
イオン小郡店に導入(4月)



【Bio c' Bon】イオンなかも店でコーナー展開
既存店:オーガニックコーナー展開拡大中



魚屋の鮭・惣菜 取り扱い店舗拡大

専門店化の推進(新規顧客層の取り込み)とニーズ変化への対応

- これまで取り込めていなかった消費者ニーズに対応するべくMDを見直し、新規顧客層を獲得
- 「雑貨・トラベル」「ヘルス&ウェルネス」「スポーツライフ」、SM店舗への「i&C」導入



専門性の追求(新業態・モデルへのチャレンジ、人財育成)

➤ 「ペット」「グリーン」「アウトドア」売場の拡大 及び 専門店へのチャレンジ



【リニューアル】ホームワイドプラス都城店(6月)



【新店】ホームワイド ペット&グリーン和白店(福岡市東区、9月)

Hello! New Life!

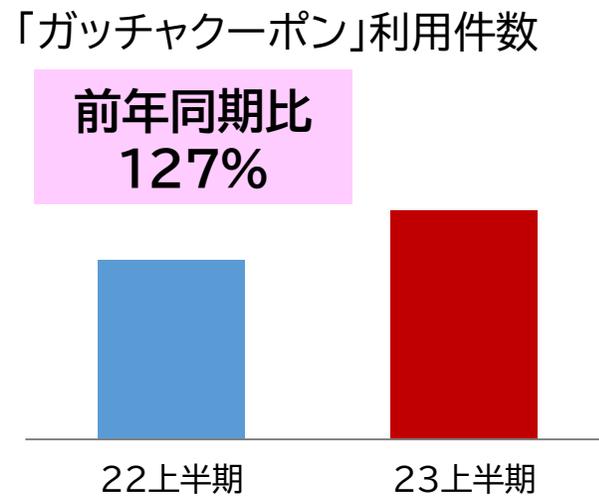
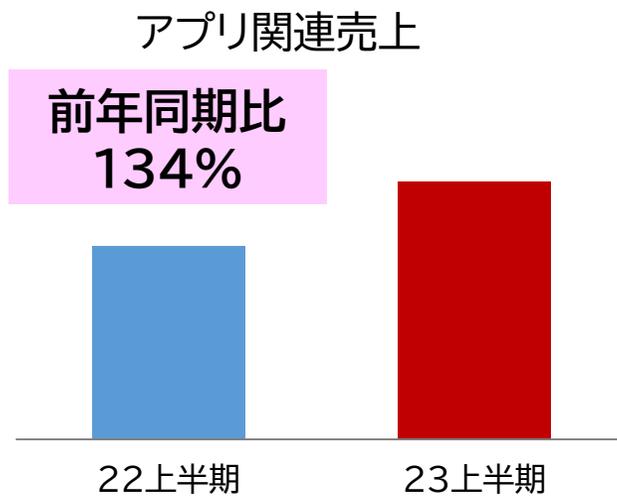
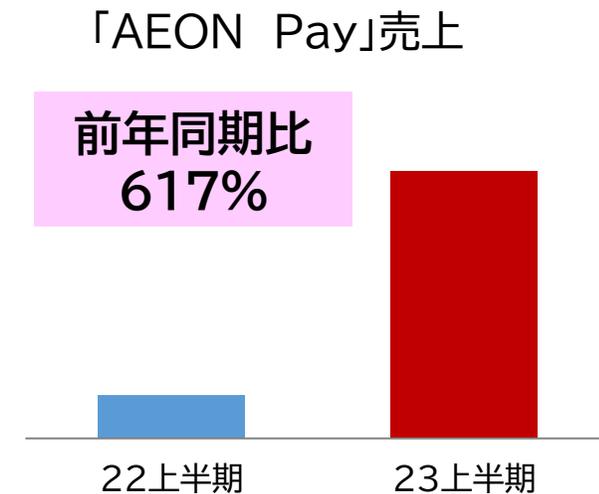
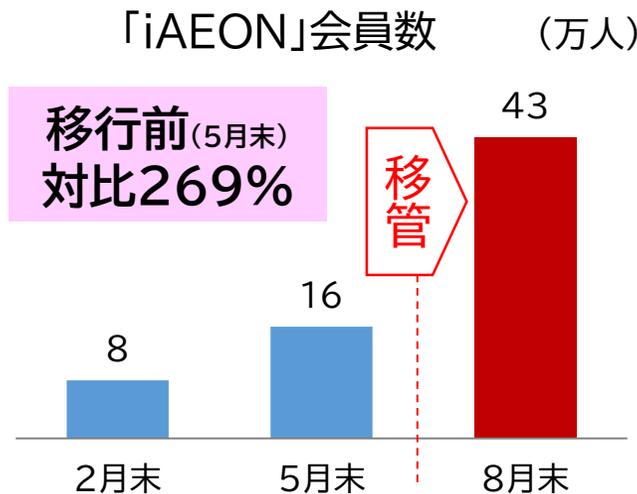
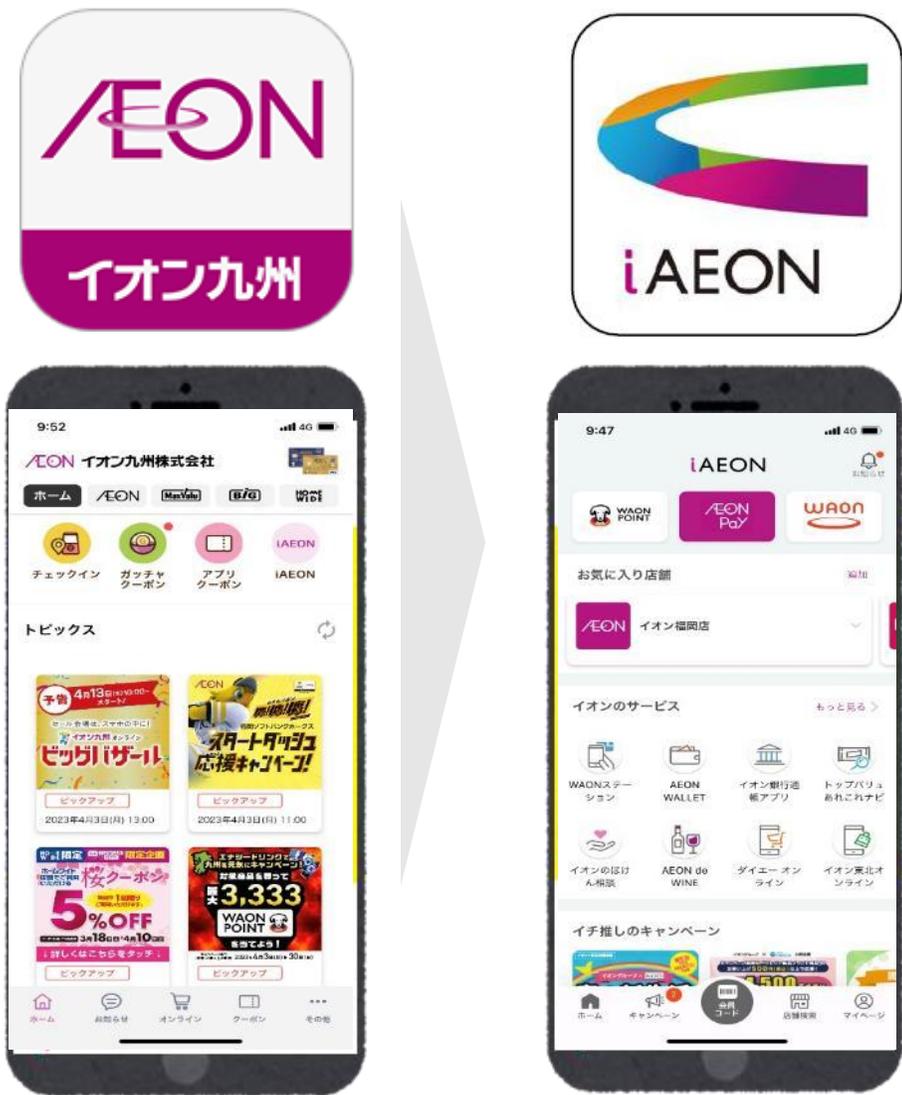
Pet Wide & **SunGarden**

人とペットが共に生きるライフスタイルを
コンセプトとして、
「ペットの内からキレイ!
外からカワイイ!」を提案する
ペット専門店です。

植物のある暮らしをコンセプトとして、
植物を見る・集める・植える・
育てる楽しさを提案する
園芸・植物の専門店です。

Pet Wideと **SunGarden** がひとつになった
HOME WIDE 「**Pet & Green**」は、
ワンちゃんネコちゃん、小動物など幅広いペットと、
観葉植物をはじめとするさまざまな植物との
こころ豊かな共生を提案します。

メインアプリを iAEON に移管、利便性向上と同時に顧客基盤を拡大



店舗デジタル化により新たな買い物体験の提供・生産性の向上を実現

セルフレジ・レジゴー(レジ業務効率化)



電子棚札(売価確認・POP関連人時削減)



【導入店舗数】
(2023年8月末時点)

57店舗

24年度上半期までに
SM全店導入を計画

【セルフレジ導入店舗数】
(2023年8月末時点)

セルフレジ導入店舗 233店舗
(導入状況)

GMS店舗:91.0%、SM・DS店舗90.3%
(内訳)

- フルセルフレジ:151店舗
- キャッシュレスセルフレジ:104店舗
- お支払いセルフレジ:220店舗

衣料品売場でのセルフレジ導入・検証(下半期)



収益構造改革PTを設置、GMS業態の更なる収益改善を図る

➤ DX活用を含めた生産性向上の取り組みを強化し、安定的に利益が出る仕組みづくり

■2023年度上半期 営業店舗段階での売上・営業利益の状況(※社内管理実績)

	営業利益 構成比	営業利益 前年同期差	売上 構成比	売上 前年同期比
SM・DS店舗計	59%	+11億円	47%	108.4%
GMS店舗計	39%	+10億円	48%	106.5%
その他店舗計	2%	△2億円	5%	101.1%
営業店舗計	100%	+19億円	100%	107.2%

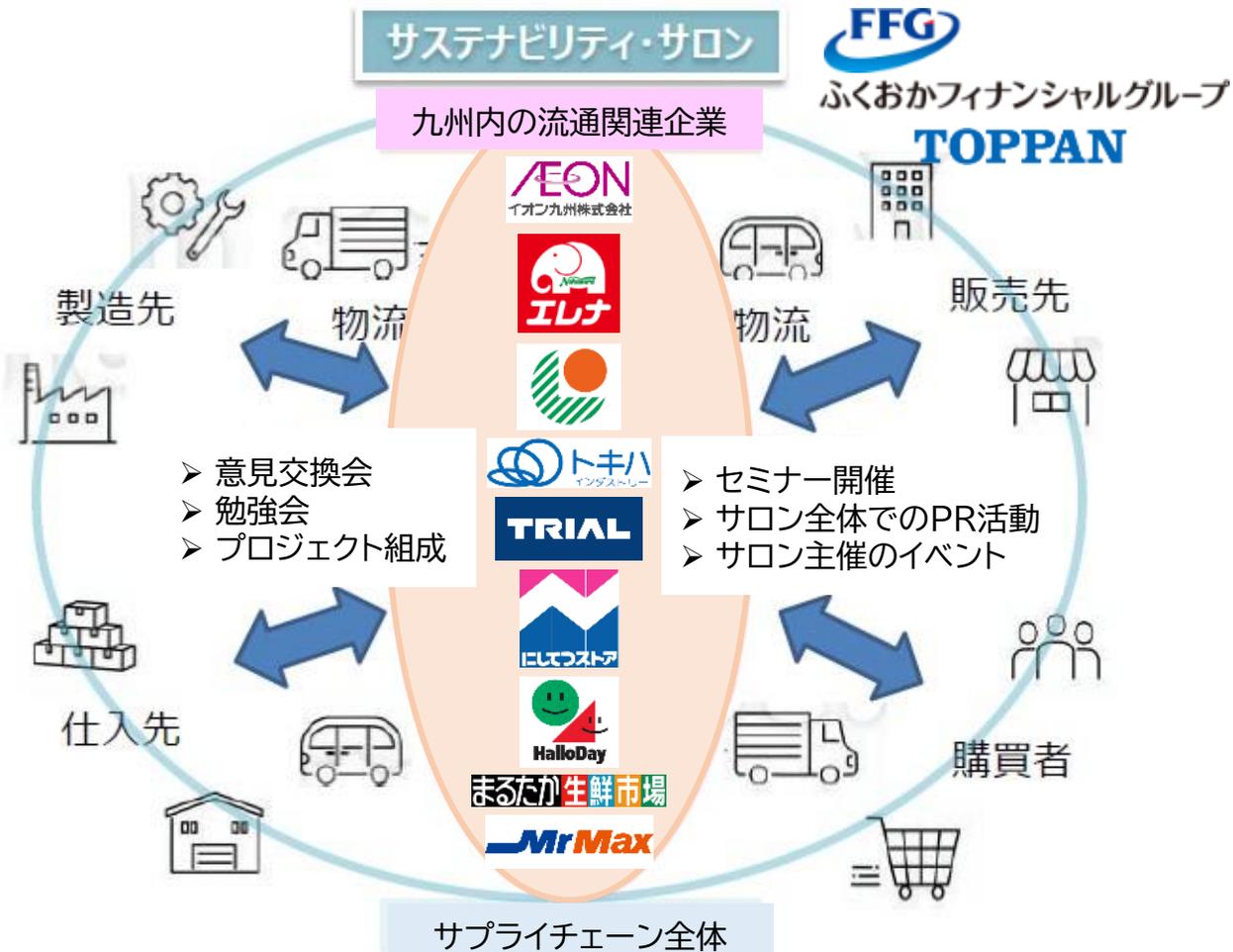
【店舗の付加価値を高め生産性向上へ】

- 専門店化の推進
- 部門構成の見直し・売場面積の適正化
- SC全体の魅力度向上
- リアルとオンラインの融合によるお客さまとのタッチポイント拡大
- DX活用による後方業務の効率化
- 利益創出部門への投入人時の再配分

人時生産性(GMS店舗計)



九州の流通企業の皆さまとともに持続可能な社会づくりを考えます



「九州流通サステナビリティサロン」設立記者会見(5月)



各社の店舗で「サステナブル共同販促」実施(6月)

事業活動を通じた環境保全・社会貢献活動の継続・拡大



環境特別WAONボーナスポイント
商品の拡販(4月・6月)



フードドライブ実施店舗拡大
九州7県279店舗(※9月現在)



【イオンハートフルボランティア】ラブアース・クリーンアップ2023に参加

(その他)

- イオンふるさとの森づくり
- イオンチアーズクラブ
- イオンハートフルボランティア
- イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン
- ご当地WAONによる寄付
- 有料レジ袋販売収益金の寄付
- 衣料品の回収(リサイクル)
- フードドライブ取り組み拡大
- フードアルチザン(食の匠)活動
- 九州力作野菜・果物の販売拡大
- あふの環2030プロジェクト活動への取り組み
- 福岡県ワンヘルス宣言事業者登録(人と動物の共生社会づくり)など

1. 2023年度上半期決算概要

2. 2023年度における主な取り組みの進捗状況

3. 2023年度通期の業績見通し

2023年度通期業績は単体として増収増益を計画

- コロナ禍における消失カテゴリーの売上回復を見込む。
- 下半期において、イオン九州(株)4店舗、イオンウエルシア九州(株)3店舗の出店を計画
- 食品を中心とした物価上昇によるお客さまの購買行動への影響、エネルギー価格の高騰等を背景とした仕入れ価格、水道光熱費の上昇等、当社を取り巻く事業環境は不透明な状況

(百万円)	2024年2月期		2023年2月期	(単体) 前期比
	(連結)	(単体)		
営業収益	500,000	498,500	484,466	102.9%
営業利益	7,900	8,500	8,330	102.0%
経常利益	8,000	8,600	8,829	97.4%
当期純利益	4,300	4,700	4,672	100.6%
1株当たり当期純利益	124.02円	135.56円	134.78円	

2023年度より中間配当を実施、利益還元の機会を拡大

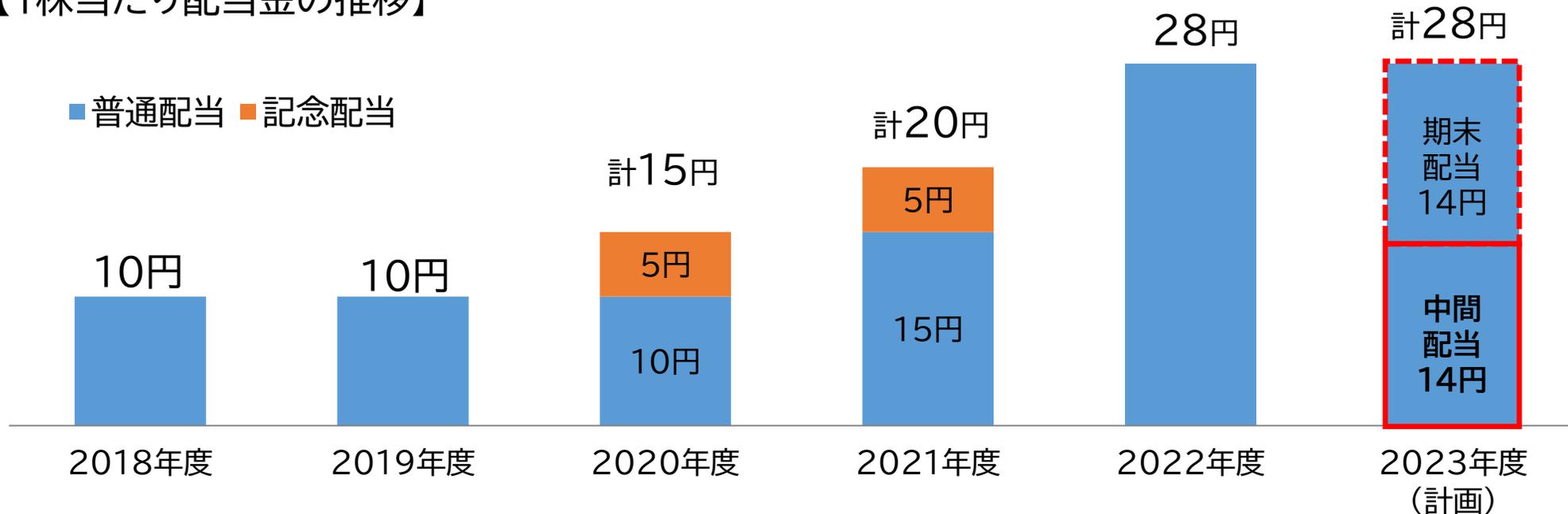
- 適切な内部留保の確保による財務体質及び経営基盤の強化を図り、安定的・継続的な配当実施
- 2023年度の配当は、中間配当14円、期末配当14円を合わせて28円を予定

中長期的な成長による
企業価値向上



経営のパートナーである
株主さまへの安定的な利益還元

【1株当たり配当金の推移】



The AEON logo is displayed in a bold, purple, sans-serif font. A stylized, three-dimensional purple ring with a gradient effect is positioned horizontally across the middle of the letters 'E' and 'O'. The letters 'A', 'E', 'O', and 'N' are visible, with the 'A' being a simple diagonal stroke and the 'E' and 'O' having a slight shadow effect. The entire logo is centered on a white background.

AEON